

戸別収集方式について

1 収集方式の比較

ステーション収集

【主たる目的】

収集の効率化

排出者が特定しにくい為、排出者責任が薄れ、分別意識が向上しにくい。

向上しにくい

分別等の意識

向上しやすい

排出者が特定される事から分別意識の向上や排出マナーの改善が期待できる。

排出者が集積所に出した後は、特定しにくい為、違反ごみを出しやすい。

出やすい

違反ごみ

出にくい

排出者が特定される事から違反ごみは出しにくい。

集積所を衛生的に使用する為、集積所利用者で管理する必要がある。

必要

集積所管理

不要

住民トラブルの原因にもなっていた集積所管理が不要となる。

収集車の通行できる集積所まで運び出して貰う為、利用者としては負担があり、利便性が低い。

低

利便性

高

戸建住宅の前に排出できる為、排出負担が少なく、利便性が高い。

排出者が集積所まで運び出したものを積込む為、収集効率が高く、集約された形でありコストが安くなる。

安

コスト

高

一軒一軒収集する事から作業量が増え、収集時間が掛かる為、コストが高くなる。

集積所に集まっている為、収集効率が高い。

高

収集効率

低

一軒一軒収集する為、収集効率が低い。

2 戸別収集導入自治体の比較

収集方法		集積所収集	戸別収集 実施				戸別収集 一部実施	
自治体		市川市	藤沢市	品川区	武蔵野市	立川市	台東区	浦安市
戸別収集のごみ種		—	全ごみ種	可燃・不燃 (資源は集積所収集)	全ごみ種	全ごみ種	可燃・不燃 (資源は集積所収集)	可燃・不燃・紙 (資源は集積所収集)
モデル回収の有無		—	有	有	有	無	有	無
有料化	有無	—	有 (H19)	無	有 (H16)	有 (H25)	無	無
	ごみ種	—	可燃・不燃	—	可燃・不燃	可燃・不燃	—	—
実施状況		—	・ H17年度(約2,000世帯)からH18年度(約30,000世帯)にモデル回収を実施	・ H13年度、約2,700世帯を対象にモデル回収を開始	・ H16年2月からモデル回収を実施し、H16年7月にモデル地区を増やして実施	・ H25年度、全地域で戸別回収、有料化を実施	・ H16年度、500世帯を対象にモデル回収を開始	・ 市内の3割の世帯を対象
		—	・ H19年度、全地域で戸別回収を実施、H19年10月より有料化を実施	・ H17年度、全地域で戸別回収を実施	・ H16年10月に全地区が戸別回収と同時に、有料化とした	※収集車と収集員が1.5倍になった	・ H25年度からH27年度の3年度計画で、H27年度中に全地域を戸別収集	・ 収集効率を考え、袋のまま、自宅前の道路に出すこととしている
		—	※収集車両の改良により、戸別収集に係る通常経費の2億～3億円削減できた	※収集時間が、倍の時間になったため、23.8%の増車を行った	※建物・道路状況により、収集効率が変わるので、モデル回収により無駄のない体制にした	※開始5ヶ月後で、前年比、月平均で可燃19%減、不燃50%減	※モデル回収実施後、可燃は1人1日で11%減、不適正排出が不燃50%、資源42%削減、集積所の美化につながった。また、3～4ヶ月でゴミが減ることが分かった	
(概要)								
面積		56.39km ²	69.51km ²	22.72km ²	10.73km ²	24.38km ²	10.08km ²	17.29km ²
人口 (H26年3月末)		469,523	418,127	370,361	141,584	178,407	188,104	162,952
世帯 (H26年3月末)		220,993世帯	178,872世帯	204,360世帯	73,655世帯	84,841世帯	108,325世帯	74,042世帯
収集日		6日/週	5日/週	4日・3日の隔週	5日・4日の隔週	5日/週	4日・3日の隔週	4日/週
(燃やすごみ) H25年度								
年間収集量		80,767t	57,515t	68,189t	21,089t	34,406t	41,420t	27,703t
収集回数		週3回	週2回 ビンと併せ収集	週2回	週2回	週2回	週2回	週3回
地区数		2地区	2地区	3地区	2地区	2地区	3地区	2地区
収集車両		40台	90台	62台	月・木=19台 火・金=17台	63台	44台	21.8台 (計算値)